

WEEKLY SIGNAL

2020年6月12日(金) 1528号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想					
6/15(月)		6/16(火)	6/17(水)	6/18(木)	6/19(金)
無担保O/N		△ 0.087% ～ 0.001%			
銀行券		ト ン	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他		+ 22,900	+ 2,000	+ 2,000	△ 23,000
資金需給		+ 22,800	+ 2,000	+ 1,000	△ 24,000
主な要因	年金定時払い 国庫短期証券発行・償還(3M)	国庫短期証券発行(6M)			国債発行(5年) 国庫短期証券発行・償還(1Y)
オペ期日	共通担保(全店) △ 4,000 CP買入 △ 500 補完供給 + 300				貸出増加 △ 62,000 米ドルオペ用担保供 + 78,300
オペスタート	国債買入 + 7,000 共通担保(全店) + 2,300 社債等買入 + 3,000				
(日本)	日銀金融政策決定会合1日目	日銀金融政策決定会合2日目 黒田総裁記者会見	貿易収支(5月)	月例経済報告(6月)	日銀金融政策決定会合議事要旨 (4月27日、5月22日分) 全国CPI(5月)
(海外)	米 グラス連銀総裁、オンライン討論会に参加 米 ニューヨーク連銀製造業景気指数(6月)	米 バウエルFRB議長上、院銀行委員会にて 議会証言 米 小売売上高(5月) 米 鉱工業生産(5月) 米 NAHB住宅市場指数(6月)	米 クリーブランド連銀総裁、講演(オンライン) 米 バウエルFRB議長、下院金融委員会にて 議会証言 米 住宅着工件数(5月) 欧 ユーロ圏CPI(5月)	米 クリーブランド連銀総裁、講演(オンライン) ECB経済報告 英中銀政策金利発表 米 新規失業保険申請件数(6月13日終了週)	米 ホuston連銀総裁、オンラインセミナーに参加 質疑に回答 米 バウエルFRB議長とクーパーランド連銀総裁 ビデオ会議に参加 EU首脳会議(テレビ会議) 米 経常収支(1Q)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.03 ～ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ～ 0.040
SPOT 3M	0.000 ～ 0.070
SPOT 6M	0.000 ～ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初414兆200億円から始まった、その後、国庫短期証券買入オペや新型コロナ対応金融支援特別オペ等の要因により増加し、419兆円9,700億円で越週した。
無担保コールON物は大手行中心に調達意欲が旺盛で、週を通して底堅い展開となった。なお同加重平均金利は週初△0.055%から上昇基調を辿り、週末は△0.023%となった。
ターム物は新積み期スタートのショートタームを中心に△0.065%近辺での出会いが見られた。来週の主な予定は国内では日銀金融政策決定会合(15-16日)、黒田総裁記者会見(16日)、全国CPI(5月)、海外では5月ユーロ圏CPI(17日)米、1Q経常収支(19日)等が挙げられる。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.01 ～ 0.00
TDB 3M	△0.140 ～ △0.095
現先(on/1w)	△0.04 ～ 0.00

＜C P＞

今週の入札発行総額は約7,000億円で、週間償還額(約6,500億円)を上回った。発行市場は、5・10日発行での新規案件と電気機器や陸運業態等の大型案件が実施され、活況となった。発行残高は、先週末の24兆4,894億円から11日時点では約24兆8,200億円と増加した模様。発行レートは浅いマイナスから0%近辺での出会いが中心であったが、一部銘柄で下限レートを切り下げる動きも見られた。12日に、CP等買入オペが予定通り6,000億円で実施された。結果は、按分落札レート△0.01%・平均落札レート△0.006%と、前回(按分レート△0.017%・平均落札レート△0.005%)比で按分レートが上昇した。
来週の週間償還額は、約5,600億円となっている。発行残高が24兆円台半ばから後半と高水準で推移する中、5・10日発行と電気機器業態等の新規案件が予想されることから、発行市場は引き続き活況が予想される。発行レートは、0%近辺の横ばい圏内の出会いを予想する。

＜TDB＞

9日の6M913回債(12/10償還)の入札は、最高落札利回り△0.1733%(前回債△0.1607%)、平均落札利回り△0.1753%(同△0.1627%)となり、入札後△0.20%～△0.205%のレンジで取引された。12日の3M914回債(9/14償還)の入札は、最高落札利回り△0.0982%(同△0.0922%)、平均落札利回り△0.1018%(同△0.0986%)となり、入札後△0.115%～△0.12%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは7月償還物は△0.16%、3M912回債(9/7償還)は△0.108%の水準で取引が散見された。

＜レボ＞

足許GC取引は週初△0.09%近辺の出会いからスタート。その後、週後半にかけて△0.07%～△0.05%までレートは上昇した。積み最終日となる15日受渡しでは、短国3Mの発行もあり、一時△0.04%台の出会いも見られた。SC取引は2年410～413回債、5年137～143回債、10年332～358回債、20年166～172回債、30年59～66回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。